

御在所岳は最も思い入れのある山のひとつで、地図もさまざまなスタイルで作成(上は鳥瞰図)。ロープウェイがあるため初心者や行動しやすく、四季を通じて登れるのが魅力だという

精度の高さもさることながら、継続は力なりと言うようにその数にも驚かされる。「山に地図を書くための紙と鉛筆を持って行くのがすっかり習慣になっている。だからこれまで歩いた山はほとんどすべて地図を作った。八〇〇枚以上はあるのではないだろうか。登山道を全部歩いてはいる。鈴鹿はもちろん、三河や遠州、アルプスの地図もある」

山に登りレポートや記録をつける人は多いだろうが、ここまで徹底して取り組むケースは極めて稀だろう。山でとったメモを活用し、そこから2万5千図の情報を盛り込んで製図と同じ要領で描く。だいたいは一枚清書するのにゆうに三〇時間は費やすという。ちよつとしたボランティア精神や努力だけではとてもやりきれない作業が続く。分かったことだが心から好きでないとできない創作なのだ。

「地図を描くのは独学で覚えた。十六歳から国鉄で工場内の機械の設計の仕事をしてきたから、紙の上に正確な情報を書くのは苦にならない。機械(製図)から山(地図)に変わったといつてもいい曲線になったということくらいで」

登山をはじめたのは四〇歳を超えてからというから、それほど早くはない(それでも四〇年以上の登山歴)。若い頃は設計の技術畑を歩み続ける仕事人間だった。ところが時代が変わり、国鉄でも設計の実務をアウトソーシング(外注)するようになって、奥村さんの仕事は指示することが中心になり製図板に向かう時間が大幅に減った。「気晴らしにちよつと行ってみるか」というのがきっかけになった山行が、現在では一〇〇〇回を超えた。

「月に二回登るといのがちよつといペース。それを四〇年間忠実にやってきたらこんな回数になった。毎週だと身体がしんどいし、休みすぎても欠かしのどい。こんなふうに年寄りなりの登り方がある」

残念ながらいまはこの地図製作は休止中だ。それにはこんな理由がある。「新しい山に行くのを家族に止められていてネタ切れの状態。私の場合は多くが単独行だから心配なのでしょう。同世代の人たちは介護されて暮らしているくらいだから

#### よくひろげた山の本

地図を描くとき、ガイド本は大切な情報源になる。歩きながら地図を書くのが奥村スタイルだが、稀に資料の中の情報だけで絵地図を作成することもある。熊野古道の分かりやすい地図がないことに気づき、行ったことがないけど一枚の地図にしてみた」ということも。



らって言われるとそれも確かに分かる。今は歩き慣れた鈴鹿や地元(山)が中心」とはいえ月一回の習慣は変わらないし、今夏は利尻山に登る計画もあるという(その際に地図作り再開?)。

年寄りだから無茶をしないでと言われても、奥村さん自身は無茶なことはいくらでも、一度だつてしたことはいくらでも。地図を描く行為は自分自身が最も詳しく道を知ることになっているし、一〇〇〇回の登山のなかで一度の怪我もない。トレッドマークになつていく赤い帽子をかぶる理由が、もしものことがあつてもすぐに見つけられるからというくらいなのだ。だから、そこらの若い人よりもずっと安全な登山をするだろう。「石橋を叩いて渡る性格」の奥村さんにとって、地図作りとは自身の安全登山のためのツールになつていったのだ。

文◎若月武治

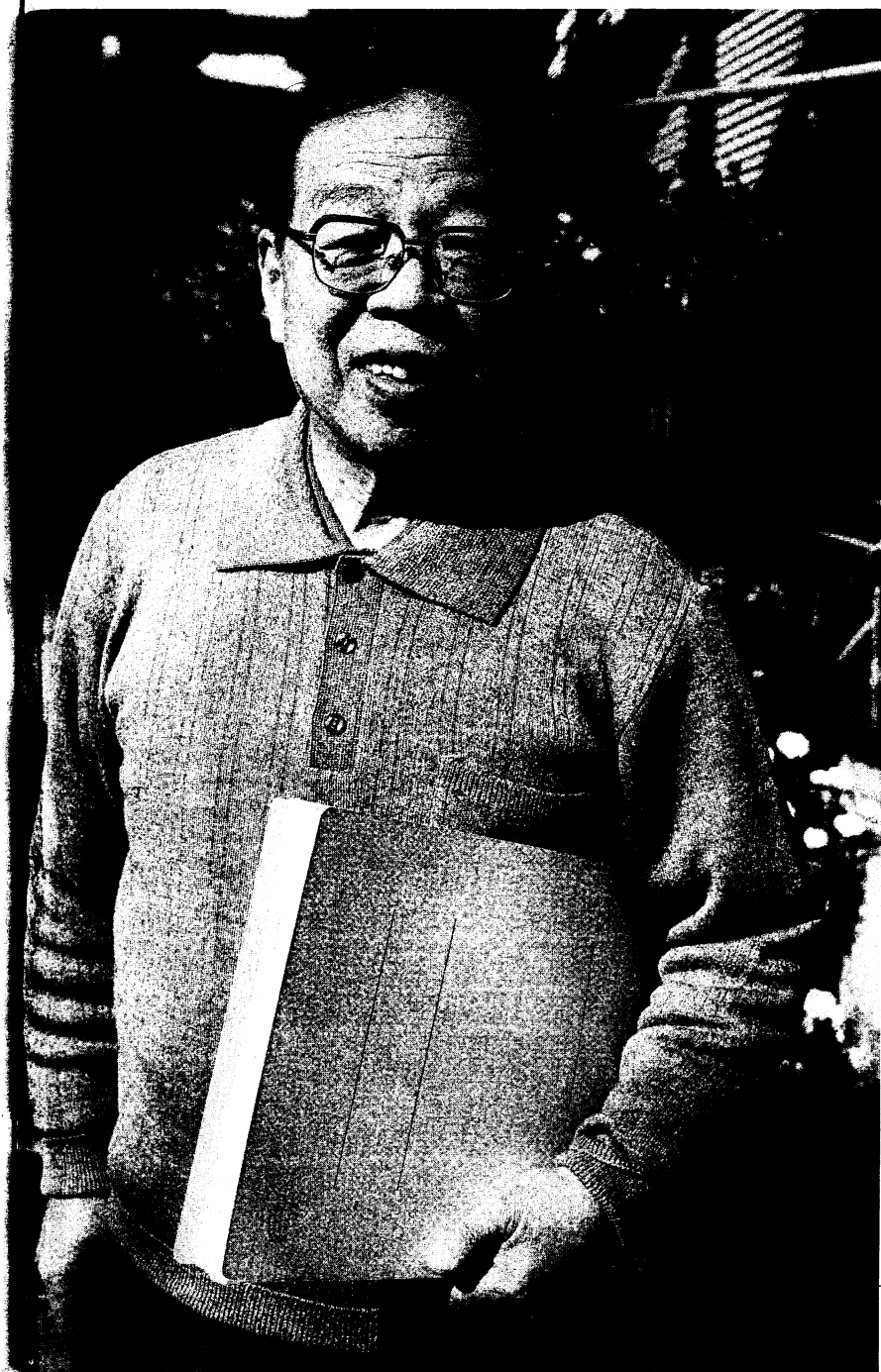
遭難の原因は、いつの時代でも「道迷い」がダントツに多く数えられる。死につながる滑落や疲労死にしてもその多くはルートを外れたところで起こっている。

山を歩くには地図が必要不可欠だといつても、国土院発行の地形図を入門者が使いこなすにはちよつと難しい。各種ガイドブックが分かりやすく便利だが、掲載されているのはメジャーなルートが多く、マイナーな山は注目されにくい。たとえそんな山でもある程度リスクとは隣り合わせなのだ。

現在八十四歳の奥村さんは、山登りをはじめた頃にこの現実を知り、山歩きに慣れない人たちが道に迷わないようにする方法を考えた。約四〇年前のことだ。「もともと鈴鹿は迷路の山とも呼ばれていて、道が多ければ多い。植林道けもの道、鉱山の道、農作業、みんなほうほう歩き回っている。歩き慣れないと、簡単に迷い込んでしまふ。最初は手作りの道標を設置したが、続いて地図を描いて周囲に配布するようになった」。

「コースタイムはもちろん、見晴らしのいい場所、危険箇所、徒渉箇所、何回曲がつたかまで、細かく記入していくのが私の描き方」

実際、市販のガイドマップと比べてみてどうだろうか? 遜色ないところか、奥村さんの地図のほうが正確さや情報量では長けているように思える。カラーでないところが残念ではあるのだが、これは複写のコストの関係上しかたがない(無料で配布しているため)。



## 鈴鹿山歩き地図作成者 奥村光信さん

趣味の域を超えた正確さと情報量。ガイドブックをしのぐほどの分かりやすさは、元国鉄の設計士によって作られていた。一枚で山のすべてを語る職人技に目を見張る。



クリタケ  
ウサギ

#### PROFILE おくらみつる

1925年愛知県名古屋生まれ。16歳で国鉄に就職し、地元名古屋にて生産機械・クレインなどの工場設計の仕事を担当する。41歳の時に本格的に登山を開始し、同時に設計のスキルを活かして地図作製も始める。1年で25回を目標に登山を続け、06年には登山回数1000回(鈴鹿800回、アルプス1000回、その他1000回)を超える。これまで作成した地図は800枚、その一部は山小屋などで無料配布されている。

83歳には見えない立ち振る舞い。遠くに行くのが減つたといつも月に2度の登山は欠かさない